Strategy₿

Managed Cloud Enterprise

サービスガイド

更新公開日：2026年7月

著作権情報

商標情報

以下は、Strategy Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Dossier、Enterprise Semantic Graph、Expert.Now、Hyper.Now、HyperIntelligence、HyperMobile、HyperVision、 HyperWeb、Intelligent Enterprise、Strategy、StrategyB, Strategy ONE, Strategy Mosaic, Strategy Flow, Strategy 2019、Strategy 2020、Strategy 2021、Strategy Analyst Pass、 Strategy Architect、Strategy Architect Pass、Strategy AI, Strategy Auto、Strategy Cloud、Strategy Cloud Intelligence、Strategy Command Manager、Strategy Communicator、Strategy Consulting、Strategy Desktop、Strategy Developer、Strategy Distribution Services、Strategy Education、Strategy Embedded Intelligence、Strategy Enterprise Manager、Strategy Federated Analytics、Strategy Geospatial Services、Strategy Identity、Strategy Identity Manager、Strategy Identity Server、Strategy Insights、Strategy Integrity Manager、Strategy Intelligence Server、Strategy Library、Strategy Mobile、Strategy Narrowcast Server、Strategy ONE、Strategy Object Manager、Strategy Office 、Strategy OLAP Services、Strategy Parallel Relational In-Memory Engine（Strategy PRIME）、Strategy R Integration、Strategy Report Services、Strategy SDK、Strategy System Manager、Strategy Transaction Services、Strategy Usher、Strategy Web、 Strategy Workstation、Strategy World、Usher、Zero-Click Intelligence

以下のデザインマークは、Strategy Incorporated またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書に記載されているその他の製品名および会社名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

仕様は予告なく変更される場合があります。Strategy は、誤りや記載漏れについて責任を負いません。また、計画中または開発中の将来の製品やバージョンの提供に関して、いかなる保証や約束も行いません。

目次

概要

Managed Cloud Enterprise サービス（以下「MCE」または「MCE サービス」）は、Amazon Web Services、Microsoft Azure、または Google Cloud Platform 環境において、Strategy がお客様に代わって管理する Software-as-a-Service（以下「SaaS」）サービスです。お客様は、このサービスを通じて、以下のものに集合的にアクセスできます。（a）お客様がライセンスを保有する「クラウドプラットフォーム」版の Strategy ソフトウェア製品（Amazon Web Services、Microsoft Azure、または Google Cloud Platform 環境に特化して展開される最適化されたStrategy ソフトウェアプラットフォーム版）、（b）以下に記載のクラウドサポート、（c）以下に記載のクラウドアーキテクチャー。Strategy の SaaS デリバリーモデルは、基盤となるインフラストラクチャーのデプロイや管理を必要とせず、Strategy Analytics and Mobility プラットフォームをシングルテナントアーキテクチャーで消費できるように設計されています（「AI 機能」で別途説明がある場合を除きます）。

MCE は、Microsoft Azure、Amazon Web Services、または Google Cloud Platform が提供するクラウドネイティブサービスを利用した分散コンピューティングアーキテクチャーを採用しています。このテクノロジーの進化に伴い、Strategy は、お客様に常に最新のアーキテクチャーを提供できるよう、可用性、セキュリティ、またはパフォーマンスを向上させる新しいサービスを継続的に組み込んでいます。ソリューションの中核となるのは、セキュアでスケーラブル、かつ回復力に優れたビジネスインテリジェンスエンタープライズアプリケーションプラットフォームである Strategy Analytics and Mobility です。

MCE には、インテリジェンスアーキテクチャーの運用、アクセス、管理に必要な要素も含まれています。ユーザーには、リファレンスアーキテクチャーに基づいて、専用のインテリジェンスアーキテクチャーがプロビジョニングされます。プロビジョニング後、ユーザーは各自のニーズに合わせてアプリケーションコンポーネントを開発、カスタマイズ、管理できます。

この運用モデルに基づき、お客様が Analytics and Mobility ソリューションを管理・制御し、Strategy がそれを支えるクラウドベースのインフラストラクチャーを維持します。

クラウドサポート

Managed Cloud Enterprise サービスのお客様は、「クラウドアプリケーションサポート」（以下「クラウドサポート」）をご利用いただけます。当社のクラウドサポートエンジニアが、MCE サービスの期間中、お客様の Strategy Cloud Platform 環境のパフォーマンスと俊敏性を最大限に高め、コストを最小限に抑えるための継続的なサポートを提供します。クラウドサポートには、環境設定（選択したリージョンでの顧客アカウント設定、VPC/VNET/サブネットの CIDR設定）、エンタープライズデータウェアハウス統合（データウェアハウス接続のための Strategy 構成変更、外部データウェアハウスへの接続設定を含む）、認証（SSO/OIDC）、およびアプリケーション統合が含まれます。

さらに、Strategy 製品のクラウドプラットフォーム版に対する標準サポートは、お客様と Strategy との契約および当社のテクニカルサポートポリシーと手順に従って、当該製品のライセンスに付随して提供されます。ただし、MCE のすべてのお客様は、サポートリエゾン

（テクニカルサポートポリシーと手順に定義）を 4 名まで利用することができます。Strategy クラウドエリートサポートは、標準のクラウドサポートへの追加オプションとして、MCE サービスのお客様に販売されます。クラウドエリートサポートをご契約いただくと、MCE サービスのお客様は、P1 および P2 の問題に対する初期対応時間の短縮、4 名の追加サポートリエゾン（合計 8 名）、週ごとのケース管理ミーティング、カスタマイズ可能なシステムアラートなど、さまざまな特典をご利用いただけます。Strategy のクラウドサポートの提供内容の詳細については、付録 A をご覧ください。

本番環境におけるサービス停止の問題が発生した場合、Strategy はお客様からの事前承認を得ることなく、お客様の代わりに問題を解決する権利を有します。サポートに関する問題が記録され、問題の根本原因分析（RCA）と診断を通じて、報告された事象がお客様固有の Strategy アプリケーションのカスタマイズに起因すると特定された場合、クラウドサポートチームはお客様に対し、問題を解決するための利用可能な選択肢を提示します。これらの解決策を実行するには、問題の複雑さに応じて、追加支援のための Strategy プロフェッショナルサービスのご購入が必要となることがあります。

クラウドアーキテクチャー

MCE サービスの一部として提供されるクラウドアーキテクチャーは、エンタープライズレベルのデータ設計とガバナンスを提供する最適化されたリファレンスアーキテクチャーであり、（a）お客様の SaaS 環境の実行に必要なクラウドアーキテクチャーコンポーネント（シングルインスタンスアーキテクチャー、または後述の高可用性（HA）MCE アーキテクチャー構成を通じて設定）、（b）クラウド環境サポート（MCE サービス提供におけるインフラストラクチャーおよびアーキテクチャーコンポーネントの円滑な運用に必要なサポートサービスとコンポーネント）で構成されます。

クラウドインフラストラクチャー

当社の MCE Service は、業界標準のセキュリティ、コンプライアンス、可用性に関するベストプラクティスに基づいて構築された、シングルテナントのプラットフォームアーキテクチャーを提供します。すべてのオファリングは、24時間365日の可用性を備えたフルマネージド型クラウド環境であり、メタデータサーバー、ロードバランサー、ファイアウォール、データエグレス（外部転送）、その他のサービスが分離されて配置されているため、容易にご利用いただけます。これらのクラウドインフラストラクチャー（「Additional SaaS Components」）は、以下のとおり複数の構成で提供されます。

1. クラウドアーキテクチャー – Core オペレーティング環境（注文書上「Cloud Platform for AWS–Core–MCE」と表記される）は、以下のコンポーネントを含みます：
   - 本番インスタンス 1 台（最大 128 GB RAM）
   - 非本番インスタンス 1 台（最大 128 GB RAM）
2. クラウドアーキテクチャー – Tier 1 オペレーティング環境（注文書上「Cloud Platform for AWS–Tier 1–MCE」または「Cloud Platform for Azure–Tier 1–MCE」または「Cloud Platform for GCP – Tier 1 – MCE」と表記される）は、以下のコンポーネントを含みます：
   - 本番インスタンス 1 台（最大 256 GB RAM）
   - 非本番インスタンス 1 台（最大 128 GB RAM）
   - 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）1 台（最大 32 GB RAM）

3. クラウドアーキテクチャー – Tier 2 オペレーティング環境（注文書上「Cloud Platform for AWS–Tier 2–MCE」または「Cloud Platform for Azure–Tier 2–MCE」または「Cloud Platform for GCP – Tier 2 – MCE」と表記される）は、以下のコンポーネントを含みます：
   · 本番インスタンス 2 台（HA 構成、各最大 512 GB RAM）
   · 非本番インスタンス 1 台（最大 256 GB RAM）
   · 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）1 台（最大 32 GB RAM）
4. クラウドアーキテクチャー – Tier 3 オペレーティング環境（注文書上「Cloud Platform for AWS–Tier 3–MCE」または「Cloud Platform for Azure–Tier 3–MCE」または「Cloud Platform for GCP – Tier 3 – MCE」として標記される）は、以下のコンポーネントを含みます：
   · 本番インスタンス 2 台（HA 構成、各最大 1 TB RAM）
   · 非本番インスタンス 1 台（最大 512 GB RAM）
   · 非本番インスタンス 1 台（最大 256 GB RAM）
   · 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）2 台（各最大 64 GB RAM）
5. クラウドアーキテクチャー – Tier 4 オペレーティング環境（注文書上「Cloud Platform for AWS–Tier 4–MCE」または「Cloud Platform for Azure–Tier 4–MCE」または「Cloud Platform for GCP – Tier 4 – MCE」として指定される）は、以下のコンポーネントを含みます：
   · 本番インスタンス 2 台（HA 構成、各最大 2 TB RAM）
   · 非本番インスタンス 1 台（最大 1 TB RAM）
   · 非本番インスタンス 1 台（最大 512 GB RAM）
   · 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）2 台（各最大 64 GB RAM）

これらのオファリングは、Microsoft Azure、Amazon Web Services、または Google Cloud Platform からお客様に代わって調達され、MCE において Strategy Cloud Platform をホストするために利用されます。運用は、相互に合意したデータセンターのロケーションから行われます。これらの Additional SaaS Components の一部として、インスタンスベースのデプロイおよびコンテナベースのデプロイについて、本ガイドでさらに説明する Cloud Environment Support も提供します。このサポートには、MCE において Strategy の専門家が管理する Strategy Cloud Platform のサポートが含まれます。また、このサポートには、24時間365日のシステム監視とアラート、災害復旧を効率化するための毎日のバックアップ、アップデートおよび四半期ごとのシステムレビュー、年次のコンプライアンスチェックおよびセキュリティ認証も含まれます。

さらに、すべての MCE 顧客には、追加料金なしで、月あたり最大 1 TB のデータエグレスが提供されます。MCE 四半期サービスレビューの一環として、各 MCE 環境について、月間データエグレス使用量が 1 TB に近づいている、または超過している場合にはその旨をお知らせします。継続的に高い使用量を示している環境については、超過料金またはティアの調整が行われる場合があります。2026年以前の構成および関連するサポートアーキテクチャについては、付録 B をご参照ください。

MCE アーキテクチャー

MCE Core を購入した顧客は、Amazon Web Services 上で本番インスタンス 1 つと非本番イ

ンスタンス 1 つを受け取ります。各インスタンスは、Strategy Intelligence Server、Library、Collaboration のための単一サーバーで構成されます。また、Strategy のメタデータ、統計、インサイト、およびコラボレーションサービスのためのデータベースも含まれます。

AWS、Azure、または GCP Cloud Architecture – Cloud Architecture – Tier 1 オファリングのいずれかを購入した顧客は、本番インスタンス 1 つ、非本番インスタンス 1 つ、さらに Microsoft Azure、Amazon Web Services、または GCP のいずれかによる Windows インスタンス 1 つを受け取ります。各インスタンスは、Strategy Intelligence Server、Web、Library、Mobile、Collaboration のための単一サーバーで構成されます。また、Strategy のメタデータ、統計、インサイト、およびコラボレーションサービスのためのデータベースも含まれます。MCE Architecture は、数千人規模のエンドユーザーに対応できるようにスケールする設計となっています。

これらのデプロイメントに関連する 2026 年以前の構成およびサポートアーキテクチャについては、付録 B を参照してください。

高可用性 MCE アーキテクチャー

Strategy の高可用性 MCE アーキテクチャーは、複数のアベイラビリティゾーンにまたがる HA クラウドアーキテクチャーで構成されています。Strategy メタデータデータベースも、クラウドサービスプロバイダーが提供するマルチアベイラビリティゾーンアーキテクチャーを通じて HA 構成となっています。高可用性 MCE アーキテクチャーは、クラウドアーキテクチャーの Tier 2、Tier 3、および Tier 4 の各サービスに含まれています。MCE のお客様は、「クラウドアーキテクチャー」の項に記載されているように、追加の非本番インスタンスが必要な場合、次の利用可能なティアに移動できます。

クラウド環境サポート

クラウドアーキテクチャーの一部として、Strategy は、MCE サービスサブスクリプションの一部として購入された総インスタンス数に基づいてお客様の環境を維持することにより、クラウド環境サポートを提供します。これには以下が含まれます。

サービス稼働率

本番インスタンスおよび非本番インスタンスのサービス可用性は、デフォルトで24時間365日となっています。ただし、非本番インスタンスについては、お客様の現地タイムゾーンに合わせて最小12時間×5営業日で設定することも可能です。これらのパラメータは、双方の合意により調整できます。

根本原因分析（RCA）

本番環境におけるサービス停止の場合、お客様は RCA をリクエストできます。お客様は、リクエストから 10 営業日以内に RCA レポートを受け取ります。

クラウドサポートは、RCA の診断に関するすべての側面をカバーします。また、製品の欠陥、セキュリティアップデート、オペレーティングシステムのアップデート、および変更も対象となる場合があります。前述のとおり、RCA の結果、問題がお客様固有のカスタマイズによって引き起こされたと判断された場合、Strategy は、問題を解決するために、プロフェッショナルサービスなどのクラウドサポート範囲外の選択肢をご提示します。

24 時間 365 日のクラウドサポートホットライン

システムの復旧が最重要となる本番インスタンスの障害に対しては、グローバルクラウドチームが迅速な解決のために動員されます。Strategy クラウドチームは、お客様をサポートし、サービス SLA を維持するために 24 時間体制で対応します。

24 時間 365 日の監視とアラート

すべての本番インスタンスおよび非本番インスタンスにおいて、主要なシステムパラメータが監視されています。Strategy は、CPU 使用率、RAM 使用率、ディスク容量、アプリケーション固有のパフォーマンスカウンター、VPN トンネル、および ODBC データウェアハウスソースの監視に関するアラートを設定しています。Strategy のクラウドエリートサポートをご契約のお客様は、さらに、システムアラート通知を受け取る資格があります。

標準の MCE サービスの一環として、Strategy は、指定されたストレージロケーションを通じて、お客様の MCE 環境内で生成されたアプリケーションログへのアクセスを提供することができます。お客様は、これらのログの取得および取り込み、ならびに Splunk、Datadog、または同等のツールなどのサードパーティ製 SIEM またはログ管理プラットフォームとの統合の構成、運用、および保守について責任を負います。標準の MCE サービスの範囲外となるカスタム構成、ログ変換、コネクタ開発、または統合支援については、別途 Strategy プロフェッショナルサービスのご契約が必要となる場合があります。

バックアップ

すべてのお客様のシステム（システム状態とメタデータを含む）に対して、日次バックアップが実行されます。MCE のお客様のデフォルトのバックアップ保持期間は 30 日間、および過去 11 か月間の月次バックアップアーカイブとなります。すべてのバックアップには、メタデータ、キューブ、キャッシュ、イメージ、プラグインが含まれます。追加のバックアップ要件がある場合は、担当のアカウントエグゼクティブにご連絡ください。追加費用のお見積もりをご案内いたします。

プラットフォームアナリティクス

Strategy プラットフォームアナリティクスは、MCE をご利用のすべてのお客様向けに設定・維持されており、システムパフォーマンスメトリクスへの即時アクセスを可能にします。 Strategy は、MCE サービスベースのプラットフォームアナリティクスデータベースにおけるデータリポジトリ要件またはキューブメモリ要件、あるいはその両方を監視します。空き容量が割り当て済みストレージの 20%未満になった場合、Strategy はお客様の同意を得た上で、ディスク空き容量が 80%の容量しきい値を下回るまで、MCE サービスベースのプラットフォームアナリティクスデータベースから古いデータを 30 日単位で削除します。お客様が保持することを選択したデータ量に応じて、追加費用が発生する場合があります。データリポジトリ要件やキューブメモリ要件の増加を含む MCE サービスの変更に関する費用見積もりについては、担当のアカウントチームにお問い合わせください。

メンテナンス

MCE プラットフォームにサードパーティのセキュリティアップデートを適用するため、メンテナ ン

スウィンドウは月単位でスケジュールされます。この計画された中断期間中、MCE システムは提供サービスを通じたデータ送受信を一時的にできなくなることがあります。お客様は、アプリケーションの停止と再起動、サブスクリプションの再スケジュール、および関連するデータロード処理（これらに限定されません）を含むプロセスを作成しておく必要があります。緊急メンテナンスを実施する必要が生じた場合、Strategy は可能な限り速やかに、緊急の内容と予定される実施日時を明記の上、お客様の担当サポートリエゾンにメールにてご連絡いたします。計画メンテナンスウィンドウについては、通常、少なくとも 2 週間前までにお知らせいたします。ただし、緊急メンテナンスが必要な場合は、修正措置の実施前に、商業的に合理的な範囲で 24～48 時間前の通知を行うよう努めます。MCE をご利用のお客様は、指定された月次メンテナンスウィンドウを遵守いただく必要があります。割り当てられたウィンドウにご都合が悪い場合は、カスタマサクセスマネージャー（CSM）までご連絡ください。

四半期ごとのサービスレビュー

お客様の MCE を担当するカスタマサクセスマネージャー（CSM）は、ビジネスおよび技術のご担当者様と、四半期ごとに四半期サービスレビュー（QSR）を実施します。これには、システムリソースの概要説明や、これまでの傾向に基づいた改善提案などが含まれることがあります。

インフラストラクチャーの可用性

MCE サービスは、個々のサービスの障害が発生した場合でも可用性を維持できるように設計されています。HA 環境では、基盤となるアプリケーションの機能を利用し、ベストプラクティスに基づいてこれを実現しています。さらに、Strategy クラウドは AWS、Azure、GCP のアベイラビリティゾーン（以下「AZ」）のメリットを活用しています。

リージョン内フェイルオーバー（HA）

インスタンスベースの導入・展開

Tier 1 環境は低レジリエンス構成として設計されており、以下の復旧目標が設定されています。

- 目標復旧時点（RPO）：24 時間
- 目標復旧時間（RTO）：48 時間

AZ 障害が発生した場合、Tier 1 環境の復旧はリソースの可用性を前提として、これらの目標値内で別の AZ において開始されます。

Tier 2 以上の環境は、高可用性とレジリエンスを確保するために、複数のアベイラビリティゾーン（AZ）に分散して導入されます。

- 目標復旧時点（RPO）：ほぼゼロに近い（標準運用条件下ではデータ損失は想定されません）
- 目標復旧時間（RTO）：単一 AZ 障害時においてもサービス中断は発生せず、一時的なキャパシティ低下が生じる場合があるものの、サービスは継続稼働します。リソースの可用性を前提として、運用上の復旧タイムライン（最大 48 時間）以内にフルキャパシティが回復します。

コンテナベースの導入・展開

Tier 1 以上のコンテナベースのデプロイメントでは、フェイルオーバーは自動で行われます。MCE Core ティアは HA（高可用性）をサポートしていません。第3の AZ にリソースが利用可能な場合、代替ワークロードはその AZ 上で起動されます。影響を受けた AZ 上で稼働していた一部のアクティブセッションやジョブは中断される可能性がありますが、サービスは手動での介入なしに自動的に復旧します。

リージョン間災害復旧（DR）

Strategy の MCE 提供において、Core オファリングではリージョンフェイルオーバーは提供されません。

しかし、標準オファリングへの追加オプションとして、追加費用により、標準サービスにアドオンとしてリージョン間フェイルオーバーを購入いただくことが可能です。災害復旧オプションの導入を検討する際には、リージョン間フェイルオーバー用の、セカンダリーデータウェアハウスサイトを確保することを Strategy は推奨しています。

Strategy は、リージョン間フェイルオーバーについて以下のオプションを提供します。

インスタンスベース環境

- ホット-コールド：
  セカンダリリージョンにフェイルオーバー用環境を事前にプロビジョニングしておきますが、プライマリリージョンで災害が発生するまでは停止状態のままとなります。これにより、目標 RPO は 24 時間、目標 RTO は 6 時間としています。
- ホット-ウォーム：
  セカンダリリージョンにフェイルオーバー用環境を事前にプロビジョニングし、メタデータで日次更新（リフレッシュ）を行います。更新後、当該環境は停止状態になります。これにより、目標 RPO は 24 時間、目標 RTO は 4 時間となります。

コンテナベース環境

- ホット-コールド：
  プライマリリージョンで災害が発生した後にのみ、セカンダリリージョンにフェイルオーバー用環境をプロビジョニングします。これにより、目標 RPO は 4 時間、目標 RTO は 4 時間となります。

- ホット-ウォーム：
  災害発生時には、セカンダリリージョンにフェイルオーバー環境がプロビジョニングされます。これにより、目標 RPO は 30 分、目標 RTO は 2 時間としています。

アップデートとアップグレード

Strategy は、セキュリティ修正を含む最新のアップデートを提供することに尽力しており、すべてのお客様にこれらの修正と新機能をご活用いただく必要があります。各製品ライセンスに

対して、テクニカルサポートサービスサブスクリプションの一環として、お客様のご要望に応じてインスタンスベース環境に対して四半期ごとに、コンテナベース環境に対して月ごとに、無償でアップデートまたはアップグレードを提供いたします。メジャーアップグレードは、インスタンスベース環境に対して、お客様によるテスト期間として最大 30 日間、無償の並行環境で実施されますが、コンテナベース環境に対して、直接アップグレードとなります。アップデートには、別途販売されている新製品は含まれない場合があります。アップグレードの完了に 30 日以上を要するお客様は、担当のアカウントエグゼクティブまでご連絡ください。

お客様の担当カスタマサクセスマネージャー（CSM）が、四半期ごとにもしくは月ごとにアップデートのスケジュール調整を行います。これらのアップデートはシームレスに行われ、お客様の Strategy 環境におけるすべてのカスタマイズが引き継がれます。お客様は、Strategy の新しいバージョンに対応するために SDK Mobileアプリを再コンパイルする責任があります。また、アップデート後の環境において、回帰テスト、データ検証、その他のカスタムワークフローのテストを実施することが推奨されます。

役割と責任

付録 C の RACI（Responsible＝実行責任者、Accountable＝説明責任者、Consulted＝相談先、Informed＝通知先）表は、お客様と Strategy の役割と責任を明確に示しています。責任範囲の一部はクラウドサービスプロバイダーに帰属するため、Strategy はサービス可用性についてクラウドプロバイダーのサービスレベルアグリーメントに従うものとします。

移行対象外Strategy コンポーネント

以下に、クラウドでホストされない Strategy コンポーネントを示します。お客様には、レガシーコンポーネントから移行し、これらのツールのより新しい最新の後継製品をご活用いただくことを強く推奨いたします。

- Strategy ナローキャストサーバーはディストリビューションサービスに置き換えられました
- Strategy エンタープライズマネージャーはプラットフォームアナリティクスに置き換えられました
- レガシィOffice プラグイン（Office 365 以外のバージョン）

以下の項目は、MCE への接続のみをサポート対象とします。Strategy がこれらをクラウド環境でホストすることはありません。これらのソリューションには、Strategy プロフェッショナルサービスからの追加の支援が必要となる場合があります。

- MDX をサポートするための IIS Web サーバー
- プラグイン形式ではないカスタマイズ

ディストリビューションサービス

Strategy クラウドをご利用のすべてのお客様は、E メールおよび履歴リストのサブスクリプションのデリバリーに、ご自身の SMTP サーバーを使用する必要があります。ファイル購読は

MCE インフラストラクチャーの一部として提供される Amazon S3 バケット、Azure Blob ストレージ、または Google Cloud Storage にプッシュされます。お客様は、オンボーディングプロセス中にカスタマサクセスマネージャー（CSM）から提供されたストレージロケーションからファイル購読を取得できます。また、必要に応じて、Amazon S3 、Azure Blob ストレージ、または Google Cloud Storage からご希望の保存先へファイル購読を移送するためのカスタマイズについては、当社プロフェッショナルサービスチームが支援いたします。

MCE マイグレーションライセンス

MCE サービスの一環として、お客様専用の MCE 環境内には、クラウドの運用および保守のみを目的として追加の管理アカウントが 2 つ自動的にプロビジョニングされます。これらは追加料金なしで提供されます。これらのアカウントは環境ごとに固有であり、他の MCE 環境と共有されることは決してありません。
1 つ目は「mstr」アカウントです。2 つ目はクラウドプロバイダ固有の管理アカウントであり、AWS の場合は「Cxxx-administrator」または「Wxxx-administrator」、Azure の場合は「Axxx-administrator」または「Kxxx-administrator」、GCP の場合は「Gxxx-administrator」となります。
「mstr」アカウントは、クラウドの継続的な運用および保守に必要となるため、削除いただかないようお願いいたします。

AI 機能

「AI Power User」、「AI Consumer User」、「AI Architect User」、「Strategy AI」、「Strategy AI User」の各 SKU は、MCE サービスの一部として人工知能機能（以下「AI 機能」）を提供します。

AI 機能は、さまざまなユーザーロールに対応するように設計されており、AI によるデータ探索支援、自動化されたダッシュボード設計プロセス、SQL 生成ツール、および ML ベースのビジュアリゼーション手法を提供します。Strategy アナリティクスプラットフォームのフレームワーク内における AI 機能は、プラットフォームのデータ処理能力と表現力を向上させます。
AI 機能の利用には制約があり、MCE サービスからの出力の有効性、品質、または精度に影響を与える可能性があり、人間の判断に取って代わるものではありません。
お客様は、ご自身の MCE サービスの出力に基づいて行う判断、決定、および行動について、引き続き責任を負います。弊社のAI機能は、本ガイドおよびStrategy AIセキュリティホワイトペーパー（リンクはこちら: Strategy AI Security Whitepaper）に定められた目的のみでご利用ください。
また、お客様による弊社AI製品の利用がEU AI法やその他の関連するAI規制下で高リスクとみなされる可能性がある場合、そのような利用はお客様ご自身の責任で行われるものとし、該当する法令および規制を遵守する必要があります。Strategyは、そのような利用に起因または関連して生じた損失、損害、請求、費用、その他一切の結果について、責任を一切負いません。

本ガイドのいかなる規定にもかかわらず、当社は、お客様の MCE サービス注文書に明記された運用環境とは異なる環境から、お客様に AI 機能を提供することがあります。お客様は、AI 機能を駆動する人工知能サービスに対して、いかなるペネトレーションテストも実施することはできません。

Strategy AI SKU の従量制ライセンスと自動補充

- お客様がライセンスを取得した Strategy AI SKU の数量ごとに、注文の有効開始日から最大 12 か月間、または補充の場合は補充の有効開始日から最大 12 か月間（各期間を「利用期間」とします）、最大 2 万件の質問（以下に定義）を消費いただけます。未消費の質問は、(a) 利用期間の終了日、または (b) MCE サービス期間の終了日もしくは満了日のいずれか早い日に自動的に失効し、以降の利用期間に繰り越されることはありません。利用期間の満了日または 2 万件の質問をすべて消費した日のいずれか早い時点で、お客様が自動補充を希望しない旨を、(a) その時点の利用期間の満了日の少なくとも 90 日前、または (b) 1 万 8,000 件の質問が消費される前のいずれか早い時期に書面で当社に通知されない限り、お客様がライセンスを取得した Strategy AI SKU の数量ごとに、次の利用期間において追加の 2 万件の質問を消費する権利が、その時点の Strategy のリスト価格で自動的に補充されます。 Strategy AI は、お客様都合によるキャンセルおよび払い戻しはできません。
- 誤解を避けるために申し上げますが、上記の規定は、他の AI 機能 SKU のライセンスには適用されません。これらの SKU は、質問数に制限のない、指名ユーザーベースのライセンス方式となります。Strategy AI SKU をご購入のお客様は、プラットフォームアナリティクスへのアクセスが可能となり、そのレポートにて使用状況をご確認いただけます。
- 「質問」とは、Strategy AI SKU の使用中に行われるあらゆる入力操作と定義されます。以下は質問の例です。
- Auto アンサー（複数の消費オプション）：
    - Strategy の Auto チャットボットに 1 回アクションを送信して応答を受け取ることは、質問を 1 つ消費したことに相当します。
    - Strategy の Auto チャットボットの入力ボックスの下に表示される自動入力された提案を 1 回クリックすることは、質問を 1 つ消費したことに相当します。・その後、推奨されたデータ分析を選択することは、追加の質問を 1 つ消費したことに相当します。
- Auto SQL：
    - Strategy の Auto チャットボットに 1 回アクションを送信して応答を受け取ることは、質問を 1 つ消費したことに相当します。
- Auto ダッシュボード（複数の消費オプション）：
    - Strategy の Auto チャットボットに 1 回アクションを送信して応答を受け取ることは、質問を 1 つ消費したことに相当します。
    - Strategy の Auto チャットボットの入力ボックスの下に表示される自動入力された提案を 1 回クリックすることは、質問を 1 つ消費したことに相当します。
    - その後、推奨されたデータ分析を選択することは、追加の質問を 1 つ消費したことに相当します。

エージェント有効化

「AIパワーユーザー」、「AIコンシューマーユーザー」、「AIアーキテクトユーザー」のいずれかまたは複数の組み合わせを含む構成において、エージェント機能の導入に関する追加のアドバイザリー支援（エージェント有効化アドバイザリー）をご依頼いただくことができます。エージェント有効化アドバ

イザリーは1回のみ申請可能で、以下の2種類のエージェントに限定されます。

- 構造化エージェント（1件）:2つのデータセット、各データセットごとにアトリビュート15個、各データセットごとにメトリクス15個、派生メトリクス5個、1言語、および各データセット最大500万行までを含みます。
- 非構造化エージェント（1件）:最大3つのPDF/Docファイル（各ファイル最大250ページまで）を対象とします。

追加のアドバイザリーサービスが必要な場合は、Strategyはクラウドサポート以外の選択肢（プロフェッショナルサービスのご提案など）をご案内いたします。

セキュリティ

侵入テストと修復、システムイベントのログ記録、脆弱性管理を実行するために、さまざまなセキュリティツールが活用されます。MCE サービスは、以下のセキュリティ基準に従い、厳重なセキュリティ体制を維持しています。

サービス組織統制（SSAE-18）*

SSAE-18 は、AICPA によって策定されたサービス組織向け監査基準であり、システムのセキュリティ、可用性、処理の完全性、およびシステムで処理される情報の機密性とプライバシーに関するサービス組織統制を評価するものです。MCE サービスは、SOC2 タイプ 2 レポートを維持しています。

医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律（HIPAA）

医療情報の保護を目的とした管理策。

ペイメントカード業界データセキュリティ基準（PCI DSS）

ペイメントカード業界データセキュリティ基準（PCI DSS）は、カード会員情報を取り扱う組織向けに策定された、業界独自の情報セキュリティ基準です。MCE では、サービスプロバイダー向けの SAQ-D（自己問診票タイプD）を維持しています。

国際標準化機構（ISO 27001-2）

ISO 27001-2 は、ISO 27002 のベストプラクティスに基づく包括的なセキュリティ管理策や管理手法を定めた情報セキュリティ管理規格です。

MCE セキュリティスキャン

Strategy は、プラグインやドライバーなど、お客様から提供されるすべてのカスタムコンポーネントに対してセキュリティレビューを実施します。セキュリティレビューにおいて検出された問題の修正は、すべてお客様の責任となります。

クラウド共有サービスコンポーネント

MCE サービスのプラットフォームアーキテクチャーの一部として、またクラウド環境の運用を支援するために、Strategy は、インフラストラクチャーの管理・展開・セキュリティおよび運用タスクの実行を補完するサードパーティ製ソリューションを組み込んでいます。これには、管理・検知対応ソリューション、クラウドセキュリティポスチャー管理ソリューション、アプリケーション/インフラストラクチャー監視、アラートおよびオンコール管理ソリューション、ワークフローおよび

継続的インテグレーションツールなどが含まれます。

サービス稼働率

MCE は、HA 構成の本番環境に対して 99.9%のサービスレベルアグリーメント（SLA）を、非 HA 構成の単一インスタンスによる本番環境に対しては 99%のサービスレベルを提供します。稼働率は、暦月単位で以下のとおり算出されます。

$$\left(\frac{\text{合計分数} \times \text{インスタンス数} - \text{非稼働}}{\text{時合計分数} \times \text{インスタンス数}} \right) \text{X } 100 = \text{非稼働時間合計}$$

サービス定義

「合計分数」:暦月の合計分数。

「本番インスタンス」:運用中の業務プロセスを支えるために、本番環境で稼働している MCE インテリジェンスアーキテクチャー。

「非稼働時間」:各本番インスタンスについて、暦月内で以下のいずれかの状態が発生していた合計時間(分数)を指します。(1)本番インスタンスに外部接続が一切ない状態。(2)本番インスタンスに外部接続はあるが、リクエストを処理できない状態(例:接続されたボリュームがリード/ライト IO をまったく行わず、IO キューに保留がある状態)。(3)本番インスタンスのいずれかのコンポーネントによるすべての接続リクエストが、連続して 5 分以上失敗する状態「非稼働時間」には、以下の理由による MCE の非稼働時間は含まれません。Strategy ソフトウェアプラットフォーム上で構築されたアプリケーションに起因する問題(プロジェクト、レポート、ドキュメントに関する問題を含む)、ユーザー設計に関連する移行上の問題、ETL アプリケーションの不具合、不適切なデータベース論理設計やコード上の問題、定期メンテナンスに伴うダウンタイム、ユーザーの操作に起因するダウンタイム、インターネットの一般的な障害、その他 Strategy の合理的な制御が及ばない要因。

「非稼働時間合計」:すべての本番インスタンスにおける非稼働時間の合計。

お客様が暦月の途中からMCE を契約した場合でも、稼働時間は契約期間にかかわらず、暦月全体を基準として算出されます。

サービス補償

HA 構成の本番インスタンスに対する 99.9%、および非 HA 構成の本番インスタンスに対する 99%の稼働率基準が、ある暦月において満たされなかった場合、お客様は以下の定義に基づき、サービスクレジットを受け取る資格を有する場合があります。各サービスクレジットは、該当暦月において Strategy が管理する MCE サービスに対してお客様が支払った料金の合計に対する割合として算出されます。これは、「サービス稼働率」の項に定められたサービスレベル要件に Strategy が準拠しなかった場合にお客様が受けることのできる唯一の補償手段です。

サービスクレジット

HA本番インスタンス:

- 可用性が99.9%未満かつ99.84%以上の場合: サービスクレジット 1%
- 可用性が99.84%未満かつ99.74%以上の場合: サービスクレジット 3%
- 可用性が99.74%未満かつ95.03%以上の場合: サービスクレジット 5%
- 可用性が95.03%未満の場合: サービスクレジット 7%

非HA本番インスタンス:

- 可用性が99%未満かつ98.84%以上の場合: サービスクレジット 1%
- 可用性が98.84%未満かつ98.74%以上の場合: サービスクレジット 3%
- 可用性が98.74%未満かつ94.03%以上の場合: サービスクレジット 5%
- 可用性が94.03%未満の場合: サービスクレジット 7%

サービスクレジットの申請手続き

サービスクレジットを受け取るためには、当該サービスクレジットが発生したとされる暦月の翌月 15 日までに、Strategy に対してケースを提出する必要があります。ケースには以下の情報を含めてください。(a)「Case Summary/ Error Message」フィールドに「SLA Credit Request」。(b)非稼働状態を引き起こした事象の詳細な説明。(c)非稼働状態となった日時、時間帯、およびその継続時間。(d)Strategy からオンボーディングおよびインテリジェンスアーキテクチャー提供時に付与されたコンポーネントの ID、または影響を受けたシステム。(e) 非稼働状態の解消に向けてユーザーが実施した対応の詳細な説明。

Strategy は申請を受領した後、提供された情報および非稼働状態の原因を判断するための関連するその他の情報をもとに評価を行います。これには、インテリジェンスアーキテクチャーの稼働実績、サードパーティ製ソフトウェアやサービス、お客様がホストまたは契約しているソフトウェアやサービスとの依存関係、オペレーティングシステム、MCE のソフトウェア

コンポーネントなどに関する情報が含まれます。その後、Strategy は誠実に検討のうえ、サービスクレジットが発生したかどうかを判断し、その結果をお客様に通知します。サービスクレジットが発生したと判断された場合、Strategy は自らの裁量により、(1)次回の MCE サービス請求書に対して当該クレジットを適用するか、または(2)サービスクレジット相当分の期間、MCE サービスの契約期間を延長します。なお、お客様は、Strategy に対して支払うべき料金をサービスクレジットで相殺することはできません。

除外事項

SaaS モデルを通じて提供される Strategy MCE サービスにおいて、稼働率への影響に関するすべての事項について、以下はサービスの対象外(除外事項)とみなされます。

1. **定期メンテナンス**:事前に告知された定期メンテナンス中のサービス中断は、SLA の対象外となります。
2. **お客様による構成変更**:誤った構成や過剰な API リクエストなど、お客様の行為に起因するサービスの問題は対象外となります。これには、Strategy ソフトウェアプラットフォーム上で構築されたアプリケーションに関連する問題(プロジェクト、レポート、ドキュメントに関する問題)、ユーザー設計に関連する移行上の問題、ユーザー操作によって発生したダウンタイムなどが含まれます。
3. **ETL アプリケーション**:アプリケーション内の ETL 処理の劣化や障害によって発生したサービス停止は、SLA の対象外です。
4. **データベースの問題と構成**:不適切なデータベースの論理設計やコード上の問題は、SLA の対象外です。
5. **ハイパースケーラーまたはその他のサードパーティサービス**:サードパーティのサービスや、Strategy の管理外にある依存関係に起因するダウンタイムは対象外です。
6. **不可抗力**:自然災害や政府の措置など、Strategy の管理範囲を超える事象は、SLA 補償の対象とはなりません。
7. **不正アクセス**:不正アクセスや認証情報の漏洩など、Strategy に起因しない問題は SLA の対象外です。

8. **お客様起因の移行問題**：お客様またはユーザーの設計に関連する移行上の問題やサービス停止は、SLA の対象外です。
9. **SSO またはその他のカスタムセキュリティ構成・ポリシー**：事前構成済みの標準的なセキュリティ設定を超えて実施される、カスタムセキュリティポリシーやコンプライアンス対応の導入および管理は対象外です。
10. **ネットワーク接続の問題**：お客様の社内ネットワークやインターネット接続に関連する問題（VPN 構成やローカルファイアウォール設定を含む）は、お客様の責任範囲とされ、SLA の対象外です。

これらの除外事項は、責任範囲を明確にし、SaaS 提供モデルにおける Strategy MCE サービスの適用範囲と限界についての期待値を適切に管理するためのものです。

個人データの処理に適用される条件

本項は、Strategy とお客様（以下「お客様」）との間で、同一の主題に関して他に有効な契約（注文書やマスター契約を含むがこれらに限られない。以下「適用契約」と総称）が存在しない場合に限り適用され、データ処理に関する付属契約（DPA）として取り扱われます。本 DPA によって修正される部分を除き、適用契約のその他の条項は引き続き有効であり、効力を有します。

定義

「**お客様グループ**」とは、お客様およびその関連会社、子会社、子会社事業体、親会社（いずれもコントローラーとして行動するもの）であって、お客様に代わり、またはお客様のシステムを通じてMCE サービスにアクセスまたはそれを利用する者、またはお客様と Strategy との間の適用契約に基づきMCE サービスの利用が許可されている第三者であって、Strategy との間で独自の注文書を締結していない者をいいます。

「データプライバシーフレームワーク」とは、該当する場合において以下を指します。(i) 米国商務省が運営し、GDPR 第 45 条の目的において個人データに対する十分な保護水準を確保するとして欧州委員会により承認された EU-米国データプライバシーフレームワーク。(ii) 英国の管轄当局により、UK GDPR 第 45 条の目的において個人データに対する十分な保護水準を確保するとして承認された EU-米国データプライバシーフレームワークに対する英国拡張版。(iii) 米国商務省が運営し、適用されるスイスのデータ保護法の目的において個人データに対する十分な保護水準を確保するとしてスイス連邦政府により承認されたスイス-米 国データプライバシーフレームワーク。以上の各フレームワークは、それぞれ随時、効力を有し、改正、統合、再制定、または差替えされる場合があります。

「**EU/英国プライバシー関連法**」とは、該当する場合において以下を指します。(a) 一般データ保護規則 2016/679（以下「**GDPR**」）。(b) プライバシーおよび電子通信に関する指令 2002/58/EC。(c) 英国データ保護法 2018、同法により定義され、かつデータ保護、プライバシーおよび電子通信（改正等）（EU 離脱）規則 2019 により改正された英国一般データ保護規則（UK GDPR）およびプライバシーおよび電子通信規則 2003（以上を「**UK GDPR**」と総称）。(d) 上記いずれかを実施するための、関連する法律、指令、命令、規則、規制その他の拘束力を有する法的手段。これらはすべて、適用される範囲において、かつ随時、改正・統合・再制定・置換されるものを含みます。
「**個人データ**」とは、Strategy が本サービスを提供する目的でお客様に代わって処理する情

報のうち、いずれかのプライバシー法において「個人データ」または「個人情報」と定義されるものを指します。 「**プライバシー法**」とは、該当する場合において、EU/英国プライバシー関連法、米国プライバシー関連法、ならびにその他の法域における、個人データの保護、プライバシー、または個人データの利用に関する類似の法令を意味します。これらはすべて、適用される範囲において、かつ随時、改正・統合・再制定・置換されるものを含みます。
「**セキュリティインシデント**」とは、あらゆる個人データの偶発的または不正な破壊、紛失、改ざん、不正開示、または不正アクセスを指します。疑義を避けるために明記すると、個人データへの不正アクセスや、個人データを保管する
Strategy またはそのサブプロセッサの機器や設備への不正アクセスに至らなかった試行は、セキュリティインシデントとはみなされません。これには、ファイアウォールやエッジサーバーへの ping やブロードキャスト攻撃、ポートスキャン、ログオン試行の失敗、サービス拒否攻撃、パケットスニッフィング（またはヘッダーを超えてアクセスに至らない通信データへのその他の不正アクセス）、その他これに類する事象が含まれますが、これらに限定されません。
「**サブプロセッサー**」とは、Strategy が個人データを処理する目的で任命する第三者を指します。「**第三国**」とは、欧州経済領域または英国のデータ保護法の適用範囲外にある国または地域であって、該当する所管当局により、個人データに対して適切な保護水準を提供していると承認されていないものを指します（随時の判断に基づく）。
「**米国プライバシー法**」とは、該当する場合において、カリフォルニア州消費者プライバシー法、コロラド州プライバシー法、コネチカット州データプライバシー法、デラウェア州個人データプライバシー法、フロリダ州デジタル権利章典、
インディアナ州消費者データ保護法、アイオワ州消費者データ保護法、モンタナ州消費者データプライバシー法、オレゴン州消費者プライバシー法、テネシー州情報保護法、テキサス州データプライバシーおよびセキュリティ法、ユタ州消費者プライバシー法、バージニア州消費者データ保護法、および個人データの処理に関連するその他の州の同様の法律を指します。

データ処理

Strategy はプロセッサーとして、お客様の指示に基づいて、またはコントローラーとしてのお客様により提供された形で、MCE サービスにアップロードまたは転送された個人データを、お客様の文書化された指示に従って処理します。お客様は、自らおよびそのカスタマーグループの他のメンバーを代表して、Strategy が本 DPA の有効期間中、以下の表に示す目的のために、プロセッサーとして個人データを処理することを許可します。

MCE サービスに関連する個人データ	
処理の対象	お客様の事業目的のためにお客様から提供された個人データ（これに限定されない）を含むデータの保管
処理の期間	MCE サービスの契約期間および当該期間満了後 90 日間
処理の性質	MCE サービスに関連する個人データの保管、バックアップ、回復、および処理
処理の目的	MCE サービスの提供
個人データの種類	お客様が MCE サービスを通じてアップロードまたは転送した処理対象の個人データ

データ主体の分類	お客様の従業員または代理人、お客様の顧客、見込み顧客、ビジネスパートナー、ベンダー、およびお客様により MCE サービスの利用を認可された個人

Strategy は、個人データを集計または匿名化し、それがプライバシー法上もはや個人データに該当しない状態としたうえで、自社の目的のために当該データを処理することがあります。Strategy は、適用される米国のプライバシー法において定義される非識別化データをお客様から受領した場合、以下を行うものとします。(i)特定された個人または特定可能な個人と当該データが関連付けられないよう、商業的に合理的な措置を講じること。(ii)当該データを非識別化された形式のままで保持・使用し、再識別を試みない旨を公に表明すること。(iii)当該非識別化データに関して、適用される米国のプライバシー法を遵守すること。お客様は、

MCE サービスの利用を継続するうえで可能な限り、個人データを当社に転送したり、当社に個人データへのアクセスを提供したりしないよう、あらゆる措置を講じるものとします。
本契約に基づいて個人データを処理するにあたり、Strategy は以下を行います。

1. 個人データの処理を、お客様からの文書による指示に基づいてのみ行うこと。当事者は、本 DPA が個人データに関するお客様から Strategy への完全かつ最終的な文書化された指示であることに合意するものとします(当該指示は本 DPA にすべて反映されています)。データの処理は、上記の表に記載された限定的かつ特定の目的の範囲内で、常に適用されるプライバシー法を遵守して行われます。ただし、Strategy が適用法に基づき個人データの処理を求められる場合にはこの限りではありません。その場合、当該法令により公益上重要な理由により通知が禁止されていない限り、Strategy は処理を行う前にお客様に対してその法的義務について通知するものとします。
2. 以下のいずれかに該当する場合に、遅滞なくお客様に通知すること。(i)適用される米国のプライバシー法に基づく義務をもはや履行できないと判断した場合。(ii)お客様の指示が適用されるプライバシー法に違反していると考える合理的な理由がある場合。
3. プライバシー法により求められる範囲において、かつ、お客様が Strategy による個人データの使用がプライバシー法または本 DPA に違反していると合理的に判断し、合理的な書面による通知を行った場合に、お客様が自身のプライバシー法上の義務に照らして、個人データが適切に使用されていることを確認できるよう、合理的かつ適切な措置を講じる権利を認め、また、個人データの不正使用があった場合には、その使用を停止し、是正すること。
4. 個人データを取り扱うすべての従業員またはその他の者に対して、当該個人データに関する適切な守秘義務を課すこと。
5. 適用されるプライバシー法により求められる範囲において、Strategy は以下を行わないものとします。
    a) 個人データを販売すること、またはクロスコンテキスト行動ターゲティング広告の目的で個人データを共有すること。
    b) Strategy とお客様との直接的な業務関係の範囲外で、またはサービスの提供という特定の目的以外の目的で、個人データを保持、使用、または開示すること。
    c) お客様から受領した個人データ、またはお客様を代表して受領した個人データを、当該個人に関してStrategy が別途取得した個人データや他の情報源から収集した個人

データと結合すること（ただし、業務目的の実行またはプライバシー法により認められる場合を除く）。

お客様の義務

お客様は、本サービスに関連して Strategy に個人データを提供するにあたり、すべてのプライバシー法を遵守するものとします。お客様は以下の事項を表明し、保証します。（a）お客様に適用されるプライバシー法は、お客様から受領した指示の履行および本 DPA に基づく

Strategy の義務の遂行を妨げるものではないこと。（b）すべての個人データは、常にプライバシー法を遵守したうえで、お客様またはお客様に代わる者により収集・処理・保管されており、必要に応じて個人に対する通知義務や同意取得義務も履行されていること。（c）お客様は、Strategy に個人データを開示し、本 DPA に定めるとおりに当該個人データを処理させることについて、適法な根拠を有していること。お客様は、本契約に基づく個人データの処理がプライバシー法に適合していない、または将来的に適合しなくなると判断した場合に、遅滞なく Strategy に通知するものとします。その場合、Strategy は当該個人データの処理を継続する義務を負わないものとします。5.4 サブプロセス
Strategy が自己の代理として個人データを処理するためにサブプロセッサーを関与させる場合は、以下が適用されます。

a) お客様は、本項の要件に従うことを条件として、Strategy がウェブサイト https://community.strategy.com/article/strategy-sub-processors （随時変更または差し替えされる可能性あり）に記載されたサブプロセッサーを関与させることについて、包括的な書面による承認を本書により付与するものとします。
b) Strategy が新たなサブプロセッサーを任命する場合、またはお客様に代わって Strategy が処理する個人データを扱うサブプロセッサーの追加または交代を予定している場合には、前項（5.4（a））に記載のウェブサイトを更新し、新規または交代となるサブプロセッサーが個人データを処理する場合には、その更新内容を電子メールにてお客様に通知するものとします。お客様が、個人データの機密性または安全性、あるいは当該サブプロセッサーによるプライバシー法の遵守に関する合理的かつ文書化された理由に基づいて、当該掲載日から 30 日以内に異議を申し立てなかった場合、Strategy は当該サブプロセッサーの任命または交代を進めることができるものとします。お客様が新たなサブプロセッサーに対して合理的な異議を有する場合、当該サブプロセッサーリストの更新日から30日以内に、Strategy に対して書面により通知するものとし、その異議にはお客様の正当な理由を明記しなければなりません。Strategy は、お客様からの異議に対して、（i）お客様が異議の中で要求した是正措置を講じたうえで、当該サブプロセッサーの利用を継続すること（当該是正措置を講じた場合、異議は解消されたものとみなされます）、または（ii）当該サブプロセッサーの利用を伴う製品またはサービスの提供を一時停止または終了することを自らの裁量で選択することにより、その異議を解消する権利を有します。
c) Strategy は、サブプロセッサーを関与させる場合、本 DPA に基づき Strategyが負う義務と同等以上の義務を当該サブプロセッサーに課す内容の書面契約に基づいてのみ、これを行うものとします。
d) Strategy が EU/英国のプライバシー法に基づき、特定の処理業務をお客様に代わって

実施するためにサブプロセッサーを関与させ、そのサブプロセッサーがその義務を履行しなかった場合、Strategy は、当該サブプロセッサーの義務の履行について、適用されるEU/英国のプライバシー法の下でお客様に対して引き続き全責任を負うものとします。

個人データの移転

お客様は、Strategy が第三国に所在する関連会社または第三者のサブプロセッサーを任命し、個人データの処理を委託する場合があることを認識し、これに同意するものとします。その場合、Strategy は、当該関連会社または第三者への個人データの移転が、EU/英国のプライバシー法に基づく有効なデータ移転メカニズム（該当する場合にはデータプライバシーフレームワーク、または第三国への個人データ移転に関する標準契約条項など）に従って行われることを保証するものとします。

データ処理のセキュリティ

Strategy は、技術の現状、実装にかかるコスト、ならびに処理の性質、範囲、状況および目的を考慮したうえで、リスクに応じた適切なセキュリティレベルを確保するための、技術的および組織的な適切な対策を実施するものとします。
お客様は、お客様の個人データに関して、Strategy のサブプロセッサーから直接、適切な技術的および組織的対策を実施することを選択することもできます。このような適切な技術的および組織的対策には、以下が含まれます。

a) 適切なセキュリティレベルを確保するための仮名化および暗号化
b) お客様が第三者に提供する処理システムおよびサービスにおける機密性、完全性、可用性および回復力を継続的に確保するための措置
c) 物理的または技術的なインシデントが発生した場合に、お客様がお客様の個人データへの可用性およびアクセスを適時に回復するために適切なバックアップおよびアーカイブを行うための措置
d) お客様が実施する技術的および組織的措置の有効性を定期的にテスト、評価、検証するためのプロセス

セキュリティ侵害の通知

プライバシー法で要求される範囲において、Strategy は、セキュリティインシデントについて、詳細が入手可能になり次第、セキュリティインシデントに関するさらなる情報を段階的に提供しながら、過度な遅滞なくお客様に通知するものとします。疑義を避けるために明記すると、Strategy が本項を含む規定に基づきセキュリティインシデントを報告または対応する義務を負う場合であっても、それは当該セキュリティインシデントに関して、Strategy に過失または責任があることを認めるものとはみなされず、またそのように解釈されることもありません。

監査

お客様からの合理的な要請があった場合、Strategy は、本 DPA に基づく自身の義務の遵守

状況を示すために合理的に必要とされる情報を、保有する範囲でお客様に提供するものとします。また、Strategy は、関連する文書の写しや質問票への書面による回答を提供することにより、監査の実施に協力するものとします。プライバシー法により許容される範囲において、お客様による監査に代わる手段として、Strategy は、プライバシー法上の義務を履行するための自社の方針および技術的・組織的対策について、適切かつ認められた管理基準またはフレームワークおよび評価手順を用い、適格かつ独立した監査人による評価を、お客様

の費用負担にて実施するよう手配することができます。Strategy は、合理的な要請があった場合には、その評価報告書をお客様に提供するものとします。上記にかかわらず、Strategy が他のお客様に対する守秘義務または法的義務に違反するような情報、施設、文書またはシステムへのアクセスをお客様に提供する必要はありません。

お客様は、前述の「個人データの移転」項に記載された、当社によるサブプロセッサーに対する監査権が、当該サブプロセッサーごとに当社が締結している契約条件に従うものであることを認識し、これに同意するものとします。かかる監査は、以下を含む可能性があります。(i)サブプロセッサーがサービスを提供する物理的データセンターのセキュリティを含む、セキュリティ対策の適切性を検証するための外部監査人の利用。(ii)ISO 27001 規格またはこれと実 質的に同等の代替基準の使用。(iii)監査報告書(以下「**報告書**」)の作成。報告書は、サブプロセッサーの機密情報とみなされるか、または報告書を対象とする相互合意の秘密保持契約(以下「**NDA**」)に基づいて提供されるものとします。Strategy は、サブプロセッサーの許可なしに、当該報告書をお客様に開示できない場合があります。お客様が、下記の「独立した判断」項に基づく監査権の行使に際して合理的な書面による要請を行った場合、Strategy は、お客様がサブプロセッサーのセキュリティ義務への遵守状況を合理的に確認できるよう、当該報告書の写しをお客様に提供する許可をサブプロセッサーに求めるものとします。ただし、お客様は、サブプロセッサーが報告書の提供に先立ち、お客様に対して NDA の締結を求める可能性があることを了承するものとします。

独立した判断

お客様は、Strategy およびそのサブプロセッサーによって提供されるデータセキュリティに関する情報を確認し、MCE サービスが本 DPA に基づくお客様の義務ならびにお客様自身の要件および法律上の義務を満たしているかどうかについて、独自に判断する責任を負うものとします。

支援

プライバシー法により求められる範囲において、かつ処理の性質を考慮したうえで、Strategy は、個人データの処理に関連し、その結果としてお客様に課される義務をお客様が履行できるようにするため、適切な技術的および組織的対策を通じて、以下の点について合理的な支援を提供するものとします。

a) プライバシー法に基づく個人の権利に従った要請に対応すること。これには、該当する個人データの提供、削除、修正、またはお客様がこれらを実施できるよう支援することが含まれます(可能な範囲において)。
b) 個人データの性質に応じた合理的なセキュリティ手続および慣行を導入し、不正または

違法なアクセス、破壊、使用、改ざん、または開示から個人データを保護すること。

c) セキュリティインシデントが発生した場合に、関係当局や影響を受けた個人に通知すること。

d) データ保護影響評価を実施し、必要に応じて関係当局との事前協議を行うこと。

e) 本 DPA を締結すること。

お客様データの返却または削除

MCE サービスの性質上、Strategy のサブプロセッサーは、お客様に対し、MCE サービスの一部として保存された形式でお客様データを取得するため、またはお客様データを削除するために使用可能なコントロール機能を提供します。お客様と Strategy との間の適用契約が終了するまでの間、お客様は本項に従って引き続きお客様データを取得または削除することができます。契約終了日から 90 日間は、適用契約に定められた条件に従い、お客様は MCEサービスから残存するお客様データを取得または削除することができます。ただし、(i)法令または政府・規制当局の命令により禁止されている場合、(ii)Strategy またはそのサブプロセッサーが法的責任を負う可能性がある場合、または(iii)お客様が適用契約に基づくすべての 支払いを完了していない場合を除きます。この 90 日間の期間が終了するまでに、お客様はすべての Strategy アカウントを閉鎖するものとします。Strategy は、お客様がこの目的のために提供されている MCE サービス上のコントロール機能を通じて削除を要求した場合、お客様データを削除するものとします。

付録 A – クラウドサポートの内容

サポート項目	クラウドサポート	クラウドエリートサポート
専任カスタマサクセスマネージャー（CSM）	あり	あり
専任サポートリエゾンの人数	4	8
アーキテクト向け教育パスの数	0	8
P1 および P2 の初回対応時間*	P1：2 時間以内 P2：2 時間以内	P1：15 分以内 P2：1時間以内
P1 および P2 の進捗更新頻度	ステータス変更時または 1 日 1 回	P1：1 時間ごと P2：ステータス変更時または 1 日 2 回
ケース管理ミーティング	なし	毎週実施
システムアラート通知	なし（ただし、通常のアラートは受信）	あり（システムアラートと通常のアラートの両方を受信）
四半期ごとのサービス報告	メールで提供	ミーティングで提供
ロケーションベースの 24 時間 365 日サポート	なし	あり

*優先度の定義は「テクニカルサポートポリシーおよび手順」に準拠

付録 B – レガシーオファリング

追加レガシー構成（2026 年以前）– サービスおよびサポート目的に限定

A: Cloud Architecture – Standard オファリング（注文書上では “Cloud Architecture – AWS” または “Cloud Architecture – Azure” と表記）は、以下のコンポーネントを含みます。
- 本番ノード 1 台（最大 512 GB RAM）
- 非本番開発ノード 1 台（最大 64 GB RAM）
- 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）1 台（最大 32 GB RAM）

追加ノードは、このオファリングのアドオンとして注文の実行により購入可能です。購入された各追加ノードは、本番または非本番環境のいずれかで使用され、最大 512 GB RAM を含みます。顧客は追加ノードを購入することで、HA 本番インスタンス（高性能ファイルシステムを含む）を構成したり、品質保証や開発のための独立したスタンドアロン環境として利用したりすることができます。

B: Cloud Architecture – Small オファリング（注文書上では “Cloud Architecture – AWS Small” または “Cloud Architecture – Azure Small” と表記）は、要件が比較的シンプルな一部の中小規模顧客向けに提供され、以下のコンポーネントを含みます。
- 本番ノード 1 台（最大 128 GB RAM）
- 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）1 台（最大 16 GB RAM）

C: Cloud Architecture – GCP Standard オファリング（注文書上では “Cloud Architecture – GCP” と表記）は、以下のコンポーネントを含みます。
- ノード 1 台（最大 640 GB RAM）
- 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）1 台（最大 32 GB RAM）

追加の GCP ノードは、このオファリングのアドオンとして注文の実行により購入可能です。購入された各追加ノードには最大 640 GB RAM が含まれます。顧客は追加ノードを購入することで、HA 本番インスタンス（高性能ファイルシステムを含む）を構成したり、品質保証や開発のための独立したスタンドアロン環境として利用したりすることができます。

D: Cloud Architecture – GCP Small オファリング（注文書上では “Cloud Architecture – GCP Small” と表記）は、要件が比較的シンプルな一部の中小規模顧客向けに提供され、以下のコンポーネントを含みます。
- ノード 1 台（最大 128 GB RAM）
- 非本番 Windows インスタンス（Utility Box）1 台（最大 16 GB RAM）

Cloud Architecture:
Strategy の MCE Architecture における AWS、Azure、または GCP の Cloud Architecture – Standard または Cloud Architecture – Tier 1 オファリングを購入した顧客は、本番インスタンス 1 つ、非本番インスタンス 1 つ、さらに Microsoft Azure、Amazon Web Services、または GCP のいずれかによる Windows インスタンス 1 つを受け取ります。各インスタンスは、Strategy Intelligence Server、Web、Library、Mobile、Collaboration のための単一サーバーで構成されます。また、Strategy のメタデータ、統計、インサイト、およびコラボレーションサービスのためのデータベースも含まれます。MCE Architecture は、数千人規模のエンドユーザーに対応できるようにスケールする設計となっています。2025 年 6 月以降のデプロイメントでは、コンテナベースのアーキテクチャーが採用されています。両者の主な利点の一部を以下に示します。

カテゴリ	コンテナベースの導入・展開	インスタンスベースの導入・展開
プロビジョニング及びセキュリティ	多要素認証（MFA）に対応した新しいプロビジョニングコンソールにより、安全性を確保しつつ、アクセスおよび管理を効率化します。	顧客向けの多要素認証（MFA）オプションを備えていない従来型のプロビジョニング方式
メンテナンス及びアップデート	月次アップデートとメンテナンスを統合することで、イベント回数を削減し、ダウンタイムを短縮。	メンテナンスとアップデートのサイクルが分離しているため、イベント発生頻度が高く、ダウンタイムが長くなる。
災害復旧（DR）	強化された災害復旧（DR）により、復旧目標時間を短縮： 目標RTO 約4時間／ 目標RPO 約4時間 より迅速な復旧を可能にします。	復旧目標時間が長い： 目標RTO 約6時間／ 目標RPO 約24時間。
拡張性（スケーラビリティ）	水平スケーリングによりシームレスなキャパシティ拡張が可能であり、垂直スケーリングも最小限のダウンタイムで実施可能。	主に垂直スケーリングに依存しており、通常はダウンタイムを伴います
運用の柔軟性	ローリングアップデートおよびローリングリスタートにより、ライセンスキーやSSOなどの構成変更を最小限のダウンタイムで適用可能。	多くの構成変更において、より長時間のダウンタイムが必要となります。

付録 C – RACI ダイアグラム

アクティビティ	説明	MCE スタンダード	お客様
クラウドプラットフォーム			
環境構築	自動化された構築、セキュリティ境界など	RA	CI
インフラ保守	月次/緊急保守ウィンドウ、OS アップデート	RA	I
環境サイズ変更	VM のアップサイジング/ダウンサイジング	RA	CI
インフラ管理	VM、ストレージ、DBMS（MD/PA 用）など、すべてのクラウド構成要素	RA	
バックアップ	コンピュートインスタンス、キャッシュ/キューブファイル、MD リポジトリ、ODBC および設定ファイル	RA	
リストア	コンピュートインスタンス、キャッシュ/キューブファイル、MD リポジトリ、ODBC および設定ファイル	RA	CI
24 時間 365 日サポート		RA	
セキュリティおよびコンプライアンス			
ISO27001	第三者監査による認証	RA	I
SOC2/タイプ 2	第三者監査による認証	RA	I
GDPR	社内監査による認証	RA	I
PCI	社内監査による認証	RA	I
HIPAA	第三者監査による認証	RA	I
24 時間 365 日のセキュリティインシデントイベント管理	セキュリティログを SIEM に送信して自動分析	RA	I
脆弱性管理	NIST 標準に基づくスキャンおよび修正対応	RA	I
侵入テスト	環境に対する四半期ごとの外部スキャン	RA	I

保存データの暗号化	ストレージボリュームおよび MD DB に対する AES 256 暗号化	RA	I
モニタリング			
クラウドインフラストラクチャーコンポーネント	VM、ストレージ、DBMS（MD/PA 用）、ネットワークコンポーネント	RA	I
アプリケーションサービス	Strategy の各種コンポーネント（I-Server、Web アプリなど）	RA	I
データ接続	VPN、プライベートリンク	RA	CI
侵入検知	SIEM による監視	RA	I
ログ管理	ロードバランサーのログなど	RA	
データソースおよびデータベース接続	VPN トンネル、プライベートリンク、エクスプレスルートなどの導入/構成	RA	RA

Strategy アプリケーション管理			
リファレンスアーキテクチャー	MCE アーキテクチャー	RA	I
アップグレード	並行環境によるプラットフォームアップグレード	R	ACI
アップデート	並列環境を必要としない「上書き」アップデート	R	ACI
アップグレード後の QA（サービス可用性）	サービスの健全性/可用性に関するテストと検証	RA	CI
アップグレード後の回帰テスト	お客様による回帰テストおよび機能テスト/認証	I	RA
お客様データ	お客様データの管理		RA
Strategy プロジェクト開発	コンテンツの構築と配信		RA
Strategy プロジェクトおよび I-Server 構成	プロジェクトおよび I-Server 固有の設定		RA
カスタマイズ	カスタムワークフロー、プラグイン/SDK カスタマイズ、Strategy Web アプリのカスタマイズ	CI	RA

Strategy アプリケーションのユーザー権限設定	どのユーザーがどのレポートにアクセスできるかをお客様が管理		RA
認証設定	SSO および OIDC 対応の認証方式	R	ACI
メタデータモデリング	ルールの構築		RA
プラットフォームアナリティクス	初期構成のみ + サービス可用性のモニタリング	RA	
配信サービスの SMTP サーバー	お客様の SMTP サーバー経由で MCE の配信サービスを実行	CI	RA
ファイル配信設定	コンテンツをファイル（Blob/Amazon S3/Google Cloud Storage）に送信する構成	RA	CI
プラグイン		CI	RA
プレプロダクション/POC			
プロジェクト管理	社内リソースの調整による各種作業の完了支援。顧客の責任範囲を明確化（SE 主導）	RA	CI
環境構築（バニラ）	選択されたプラットフォームおよびリージョンに基づいて環境を構築	RA	CI
Strategy MD リストア	MD およびその他のアーティファクトのリストア	RA	CI
環境設定	I-Server の設定、URL のカスタマイズ、認証設定、Web アプリのデプロイ、カスタム ODBC ドライバーの導入	RA	CI
ネットワーク接続	社内アクセスのためのオンプレミス接続	RAC	ACI
カスタマイズ	カスタムワークフロー、プラグイン/SDK カスタマイズ、Strategy Web アプリのカスタマイズ	CI	RAC
テスト	成功基準を満たすことを確認するためのテスト（SE 主導、顧客と連携）	CI	RA

移行			
プロジェクト管理	社内リソースの調整による各種作業の完了支援。顧客の責任範囲を明確化	R	ACI
アプリケーションアップグレード	MD およびその他のアーティファクトを最新バージョンへアップグレード	RA	CI
Strategy MD リストア/リフレッシュ	MD およびその他のアーティファクトのリストアまたはリフレッシュ	RA	CI
環境設定	I-Server の設定、URL のカスタマイズ、認証設定、Web アプリのデプロイ、カスタム ODBC ドライバーの導入	RA	CI
ネットワーク接続	社内アクセスのためのオンプレミス接続	RAC	ACI
カスタマイズ	カスタムワークフロー、プラグイン/SDK カスタマイズ、Strategy Web アプリのカスタマイズ	CI	RAC
アップグレード後の QA （サービス可用性）	サービスの健全性/可用性に関するテストと検証	RA	CI
アップグレード後の回帰テスト	お客様による回帰テストおよび機能テスト/認証	CI	RA

Strategy₿